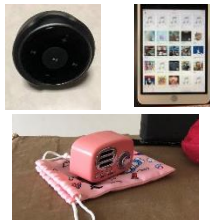


学校名	兵庫県立西はりま特別支援学校		
1 ICTを活用した自立活動指導の実際			
(1) 指導期間・指導時数			
令和4年4月1日～令和5年3月31日 3日(12時間)			
(2) 使用した遠隔システム			
Zoom(2回)			
(3) 指導目標			
○長期目標			
ICT機器を使って意思の表出をすることができる。			
○短期目標			
ICT機器を使って健康の保持の動機付けにつなげるようにする。			
(4) 自立活動の区分・項目			
1 健康の保持 ④健康状態の維持・改善に関すること			
3 人間関係の形成 ①他者との関わりの基礎に関すること			
4 環境の把握 ①保有する感覚の活用			
(5) 指導内容			
ICT機器を使って、学習意欲を向上する。			
人や物を注視したり、追視したりすることができるようになる。			
他者への意思の表出に繋げるようにする。			
(6) 指導の手立て			
・音楽が好きなので、それを聞きながら立位に取り組むモチベーションにつなげるようにする。			
・本人が見やすい、聞きやすい環境を設定するようにする。			
			
		指導の様子	教材教具等
(7) 指導上の工夫			
・BluetoothでiPadと連動できる本人が押しやすいスイッチの形状を探し、様々な形状の物を試した。			
・本人の追視しやすい色や大きさのBluetoothスピーカーを探し、音楽を流すことで、スピーカーから音の流れる因果関係や期待感が持てるようにすることをねらい指導にあたった。本人の最も機器やすい音質についても検討した。			

(8) 校内の指導体制

支援部や情報図書部と連携し、多面的な視点で支援の方法を考えた。

2 成果と課題

児童生徒の変容

(指導開始前)

- ・ 追視をすることが難しいことがあった。
- ・ 立位に取り組むときに嫌がることがあった。

(指導開始後)

- ・ 「好きな音楽がなる」という期待感を持ってスピーカーを見ることができるようになってきた。
- ・ 「好きな音楽を聴く」ということがモチベーションのアップにつながり、嫌がることなく立位の姿勢に取り組むことができるようになった。

成果

- ・ 徐々に追視が出来ることが増えてきて、教師の声掛けで視線を向けたり注視できたりすることが増えてきた。
- ・ 音楽を聴くことで立位の姿勢にスムーズに取り組むことができるようになったため、筋力のアップや呼吸の状態の改善などに繋がっている。

今後の課題

「スピーカーから音楽が流れる」「ボタンを押すと音楽が流れる」といった行動と結果の因果関係の理解までには至っていない。これが理解できるようになると、動作を起こす意欲の向上につながり、これからできることが増えてくると考えられる。今後はそこを繋げられるように指導方法を検討・工夫していきたい。

3 ICTを活用した自立活動指導についてのコメント

(児童生徒、保護者、教員等の声)

(生徒) 健康の保持、筋力の向上につながった。様々な取り組みの中で押しやすいボタンの形状が模索できた。

(保護者) 教員が大学の先生の助言を受けて、自分の子どものために様々な取り組みや工夫をしてくれていることがうれしい。意思の表出の一つの手がかりとなってほしいと願っている。

(教員) 担当生徒の指導の試行錯誤の機会が得られ、指導内容が工夫できた。大学の先生からの指導助言をもとにしての気づきも多く、自身の指導方法を見直す機会になり、引き出しが増えたように思う。